

# FIVE VALUE ASSET

## Monthly Newsletter

### 5 バリュースト通信 Vol.19

Date of issue: 2026.05.20

平素よりお世話になっております。5 バリューストセットでございます。今月もマンスリーレターとして5 バリュースト通信をお届けいたします。マーケットニュースのご案内の他に、時事に関するコラムなどを月に1回お届けいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

#### Interview メンバーの言葉



副社長 兼  
ヘッドオブ東京オフィス  
山村 浩之

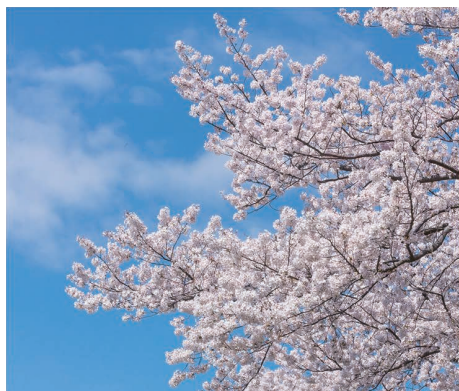
2月末に始まった米国・イスラエルとイランとの紛争に伴い世界情勢の不安定度が増していますが、紛争も一進一退が続き解決までの道のりはまだ遠い状況です。

株式や債券をはじめとする金融市場も大きな影響を受けていますが、楽観的な見立てと悲観的な見立てが交錯し、どのような運用を行えばよいのかについて多くの投資家の方々が迷われていると思います。

歴史的に見ても、数々の危機に見舞われる度に金融市場は大きな変動を繰り返してきており、常に上昇あるいは下落という一本調子であったことはほとんどありません。まさにこのような変動の時こそ、運用アドバイザーである我々の価値が試されます。

迷いと不安が増幅するなかで、お客さまが我々を頼りにしていただくためには、これまで培った知見や経験はもちろんのこと、当社の5つの理念から軸足がぶれないことが最も重要だと思っております。

#### Topics 今月のトピックス



5 May 2026

- Book Review
- Third Oil Crisis !?
- 5Value off-site seminar



- 山本秀策『一緒に、人生を語ろう』
- 第3次オイルショック!?
- 5バリュースト オフサイト研修



山本秀策『一緒に、人生を語ろう——これからを生きる人たちへ——』(2026, 朝日新聞出版)

1943年 奈良県に生まれる。1966年 大阪大学工学部醸酵工学科卒。1966年 キッコーマン醤油入社。1974年 同社退社。小規模特許事務所を経て、米国ワシントンDCへ。1979年 山本秀策特許事務所を大阪に開設。2014年 組織変更し、山本特許法律事務所に。大阪大学産学共創本部顧問、大阪大学大学院医学系研究科招聘教授、大阪商工会議所・ライフサイエンス振興委員会副委員長など。山本特許法律事務所は現在、弁護士・弁理士30数名を含む総勢180名。企業法務・知財・競争法・訴訟・紛争解決などを扱う。(朝日新聞出版 HP より引用)

本書は、弊社代表の斉藤彰一も多大な影響を受けている山本秀策先生による自叙伝で、『知財がひらく未来 山本秀策仕事の哲学』(2019, 朝日新聞出版)に続く単著となります。特許・知財ビジネスを中心にした仕事論という趣の『知財がひらく未来』とは異なり、本書はより幅広い読者層を想定した内容になっているほか、様々な事例についての解説を通じて知財ビジネスの役割や重要性についても知ることができます。

山本先生は、「多様性」「実力主義」「顧客優先(クライアント・ファースト)」「迅速かつ高品質なサービスの提供(スピード&クオリティ)」の実践に不可欠な要素として、「正直・素直・謙虚」という信条を掲げられておられますが、本書で語られる山本先生の人生観や物事に対する視座は、信条についてお話されるYouTubeの山本秀策特許事務所の代表メッセージ動画(2013年の収録当時70歳)と変わらず、活力と好奇心に満ち溢れているという印象を抱きました。

本書の構成は第1～第3章が「これまで」、第4章が俯瞰的な視点での振り返り、第5章・第6章が「これから」に相当しており、第5章・第6章では、旧態依然としたビジネスの慣習や儒学の伝統に由来する「金儲けは卑しい」ものと思いがちな日本的な金銭感覚の見直しや、研究成果を知財に変え社会に還元・実装することや産学連携の重要性、AIが覇権を握る現代でどのような人物像を志すべきか、といった点についても語られます。

山本先生は人生や仕事においては「誠意」と「信頼」が重要な要素になると述べられ、「人に信頼されるためには、誠意と気配り、心遣い、誠実な心だ。そんな気持ちと態度で人に接してこそ、その人を信頼してみようという心が相手に芽生え、ついには信頼されることになる。簡単に見えて、簡単ではない」(117頁)という一節からも、「正直・素直・謙虚」という信条が、「誠意」と「信頼」の根幹に据えられていることが窺えます。

人生訓的な内容が本書の多くを占めますが、山本先生の専門分野である知財ビジネスに関する部分は、「自と他を明確にすることを嫌い、物事の白黒の決着を避け曖昧を好み、そして争いを本能的に嫌う日本社会」(56頁)に慣れ親しんだ感覚からすると非常に厳しいご指摘が多く、知財先進国アメリカで磨き上げられたご経験が強く表れており、正統な利益を生み出す自身のアイデア・技術を他者から守ることの重要性を認識させられました。

「これから」に相当する部分は、成人・壮年・老年といった読者の年齢層によって受け取り方が変わり、壮年・老年層の読者であれば「コントロール外の現実の『自然の時間』との間の肉体的・精神的齟齬」(157頁)について語られる時間感覚に対する意識の変化や、老年期の捉え方・人生観について親近感を強く持つかもしれません。

加えて、本書の末部では「これから」に関連してAIについても言及されており、進化したAIを補完ツールとして使いこなすことと、AIに対峙する際の「心づもり」として「極めて人間的であること」が提示(167頁)されます。それは「他者を『慮る心』」、「人を『惹きつける力』」、「コミュニケーション力」「人と『共感しあえる心』」「極めて人間的であること」現実社会を生きるうえでの「信頼」に繋がると述べられ、そこで触れられた「心づもり」の多くは、ウエルスマネジメントにおいても肝要なものになるとも感じました。

(文: 鈴木 真吾)

# Third Oil Crisis!? 第3次オイルショック!?

「目には青葉 山ほととぎす 初鰹」。俳句の素養が全くない筆者でも、この時期になるとふと頭に浮かぶほどよく知られた素晴らしい句です。先日、丹沢へと山歩きに向かい、ブナやカエデの新緑を満喫して参りました。生憎ほととぎすには出会わなかったものの、うぐいすをはじめ様々な野鳥の囀りも堪能できました。視覚、聴覚とくれば次は味覚です。

さて初鰹で一献を、などと考えていた矢先、ちょっと嫌なニュースが目につきました。鰹が不漁なのではありません。むしろ今年は豊漁のようです。それは「ナフサ」不足です。長引くイラン戦争のあおりで、食品トレーやビニール袋といったプラスチック製品、合成繊維、合成ゴムなど様々な製品の原料となるナフサの供給に懸念が出てきているようなのです。折角初鰹が豊漁でも、食品トレーやラップの不足で店頭には並ばない、など誠に残念極まりないことです。幸い未だ懸念であり、実際に商品が店頭から姿を消している訳ではありませんし、また品不足を煽るつもりも毛頭ございません。



ただ、一部にパッケージのモノクロ化（ナフサはインク材料）や製品の出荷制限が出てきているのも事実です。「ナフサ」に関しては全くの門外漢ですが、少し調べてみることにしましょう。「ナフサ (naphtha)」の語源は、約4000年前のメソポタミアで用いられていたアッカド語の「naptu (燃え上がる等の意)」まで遡り、中世ペルシャ語の「naft (湿ったの意)」、ギリシャ語の「 $\nu\alpha\phi\theta\alpha$  (naphtha)」、ラテン語の「naphtha」と続き、元々は燃える水即ち原油を指していたようです。19世紀に精製技術が発達し、原油から生まれた製品ごとに「石油 (petroleum)」、「ガソリン (gasoline)」、「灯油 (kerosene)」、「重油 (fuel oil)」などの語が誕生した際、当時はあまり用途のなかった非常に揮発しやすい軽質な「炭化水素油」を「ナフサ (naphtha)」と呼ぶようになったそうです。いわば原油の残りカスに元々の意を与えたことになります。ちなみに原油は「crude oil」と今日では呼ばれています。

先ほど残りカスという失礼な表現を用いた「ナフサ」ですが、第2次世界大戦を挟んで多種多様の石油化学製品の原料として活用されていくようになります。その1つの要因に日本による東南アジアの占領があります。天然ゴムの供給を絶たれた米国は、合成ゴムの生産を政府管理で行い軍需用に大量生産しました。このことが石油化学工業の急速な規模拡大につながったようです。

さてこの「ナフサ」、原油を精製プラントで蒸留して作られますが、原油からはガソリン（約31%）、軽油（約25%）、重油（約17%）が抽出される中、「ナフサ」はガソリンの副産物として原油全体から10%程しか得られないものだそうです。現在日本では、原油から精製する国産が消費量全体の約39%、「ナフサ」として製品そのものを輸入しているのが約61%で、その輸入品の約8割が中東依存となっています。また「ナフサ」は原油とは異なり国家備蓄の対象外で、民間在庫は約20日分しかないとの見方もあります。その輸入ルートがイラン戦争によるホルムズ海峡の事実上閉鎖により絶たれてしまったことが、冒頭申し上げた「ナフサ」の供給懸念の要因なのです。

思えば筆者が幼少の頃は、今ほど石油化学製品が巷に溢れ返ってはいなかったと記憶しています。清涼飲料水はペットボトルではなく缶か瓶、八百屋や魚屋ではトレーに載せられた個包装ではなく、段ボールやト口箱に積まれた商品から選んだものを新聞紙等に包んで渡されました。精肉店では経木や竹の皮が用いられていましたし、豆腐屋へは鍋を持って使いに行ったものです。

これらを「ナフサ」が不足しているからといって以前のように戻すということは、そもそも流通段階から個包装で石油化学製品が大量に使用されている現在、全く現実的ではないでしょう。我々庶民レベルでは、せいぜい節約とリサイクルへの協力しか取れる手はないと思います。その上で早期に平和裏にイラン戦争が終結しホルムズ海峡の閉鎖が解けるのを祈るばかりです。また、仮にイラン戦争が終結してもホルムズ海峡が日本のチョークポイントであることには変わりありません。第1次、第2次オイルショックの教訓が世界有数の原油備蓄施設を構築したように、いわば第3次オイルショックともいえる今回の「ナフサ」供給不足が、石油化学製品依存の日本の消費社会を変えていくきっかけとなるのかも知れません。今後の官民の動きに期待をもって見守りたいと思います。（安易な補正予算編成は御免被りますが……）

## 5 Value off-site seminar 5バリュー オフサイト研修

当社ではお客様と社会に役立つ存在を目指し、経営哲学・理念の共有や、精神性の修養に努めるべく、外部講師をお招きしての社内勉強会を定期的に催しています。

2022年6月に5バリュー研修を当社の大阪オフィスで行い、その後23年3月より東海東京証券日本橋オフィスのセミナールームをお借りした5バリューオフサイト研修を実施しており、26年5月に第11回オフサイト研修を開催します。

前身である5バリュー研修では二宮金次郎がテーマとなり、第1回オフサイト研修ではオルテガの『大衆の反逆』（1929）を共通テキストとして用いました。以降は思想・哲学や、歴史的な偉人に関するお話や、利他、介護医療と地域コミュニティ、文学など幅広い分野のお話を聞き、見識を深めてきました。

第11回では、福井県越前市環境農林部農政課 課長の高橋良考氏にお越しいただき、越前市および日本の農業問題についてお話いただきます。また、下記には第10回までの開催履歴や演題をまとめてありますので、これまでの研修でどのようなテーマが取り上げられてきたかをご一読いただけると幸いです。



回数	開催日	演題	講師
第0回 (5V研修)	22年6月	二宮金次郎に学ぶ 日本人の在り方	小名木善行氏 国史啓蒙家・古典文学研究者 私塾「倭塾」運営
第1回	23年3月	21世紀に貴族であるとは	柴山桂太氏 思想家・経済思想家、京都大学大学院 准教授
第2回	23年7月	保守的態とは何か	浜崎洋介氏 文芸評論家 京都大学経営管理大学院 特定准教授
第3回	23年10月	福沢諭吉の10の言葉	川端祐一郎氏 京都大学大学院 工学研究科 准教授
第4回	24年2月	西郷隆盛と動的宗教	浜崎洋介氏 文芸評論家 京都大学経営管理大学院 特定准教授
第5回	24年5月	利他の構造	中島岳志氏 政治・歴史学者 東京工科大学 リベラルアーツ研究教育院 教授
第6回	24年9月	真の指導者とは 静かなる革命家 北条泰時に学ぶ	柴山桂太氏 思想家・経済思想家、京都大学大学院 准教授
第7回	25年2月	「きずな貯金」と信頼の本質	森田洋之氏 医師 医療ジャーナリスト ひらやまのクリニック院長
第8回	25年5月	生命力を高める日常の実践	グレートティーチャー株式会社 羽賀ヒカル氏(神道研究家)、こがみのり氏(茶肆ゆにわ店主) ちこ氏(御食事ゆにわ店主)
第9回	25年9月	文学からお陰様を学ぶ	仁平千香子氏 文筆家 フリースクール東京 y's Be 学園 実学講師
第10回	26年2月	危機の際に人を救うものとは	仁平千香子氏 文筆家 フリースクール東京 y's Be 学園 実学講師



5Value Asset Co., Ltd.



### 5バリューアセット株式会社 金融商品仲介事業者 近畿財務局長(金仲)第437号

各商品等にご投資いただく際には商品毎に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。又、各商品等には価格の変動等による損失を生じる恐れがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をよくお読みになり内容について十分にご理解ください。

この通信は、当社ホームページに掲載するほか、当社セミナーにご参加いただいた方、業務提携をいただいた方、およびIFA口座をお申し込みいただいた方に送付しております。送付の停止・送付先変更をご希望の場合は、大変お手数ですが下記のメールにご連絡ください。送付の停止・送付先変更には、少々お時間をいただく場合がございます。

発信者：5バリューアセット株式会社 クライアント・リレーション

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1丸の内永楽ビル20F

newsletter@5valueasset.com